

東 奥 日 報

2019年（令和元年）11月29日（金曜日）

八戸屋内スケート場周辺

大きな渋滞発生せず

工大生「全日本」開催時に調査

八戸工業大学土木建築工学科の学生たちが28日、八戸市中心市街地の課題に関する報告会を八戸ポータルミュージアムはっちで行った。市が周辺の交通渋滞緩和のため有料化を検討する長根屋内スケート場駐車場に關し、同大が市の委託を受けて周辺交通量を調査した結果、1日約3千人の来場者があった10月末の全日本スピードスケート距離別選手権開催時でも大きな渋滞は見られなかったと発表した。全日本選手権は人の出入りにばらつきがあったため、出入り時間が決まっている大規模イベントではか
（阿部泰起）

調査したのは伊藤瑞輝さんら3年生7人。市が有料化の是非を検討するための調査対象とした全日本選手権（10月25～27日）のうち、土日の26～27日に長根公園出入り口と交差点の計4カ所で交通量を調べた。

調査によると、同26日には駐車場が満杯となり、周辺交差点の信号待ちで最大34台の車が並んだものの、5分程度で解消されたという。「混雑が予想される」

この案内板を事前に設置していた効果で、公共交通機関を利用した人が多かったことも要因だとした。伊藤さんは「今回の規模の催しであれば、交通誘導員を配置することで、混雑をさらに防げるのではないか」との考察を発表した。

一方で、全日本選手権は競技種目ごとに人の出入りが細かくあったとも報告。伊藤さんは「コンサートなど一斉に出入りする大規模イベント時は渋滞が起こる

かもしれない」と語った。

市は交通渋滞の緩和や無断駐車抑制を目的に有料化を決定し、駐車料金の上限を600円とした市条例改正案と、駐車券発行機などの設置費5千万円の予算案を6月定例市議会に提出、可決された。

一方、市民や市議会の一部から有料化に反対する意見があり、小林眞市長は「柔軟に対応する」との考えに転じている。

※ 「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」